

宇田川文海著作年表

堀部 功夫 夫

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
〔朝日新聞創刊の祝詞〕	朝日新聞	宇田川文海	明治12・1・26
○ 俳優評判記	此花新誌	半痴山夫人	明治12・3・29
尾上多見蔵の伝	〃〃	〃	明治12・4・12
〃〃	〃〃	〃	明治12・22 未完
○ 明治文庫・佐渡乃国阿金伝	魁新新聞	無署名	不明 明治14・8・7
毛谷村かねの履歴	朝日新聞	宇田川文海	明治14・9・7
〔入社の際〕	〃	無署名〔 <small>説半教作</small> 〕	明治15・3・15
色競べ松と紅葉	〃	〃	明治15・4・7
橋岡甚三郎の履歴	人情美也子新誌	〃	明治15・5・26
〃	〃	〃	明治15・10
〃	〃	〃	明治15・22
〃	〃	〃	明治15・26
〃	〃	〃	明治15・28

資料

題名・書名		刊行物名・(出版者)	署名	年月日
新小説掲載の口上			宇田川文海	明25・2・10
〔若辺踊りの唱歌〕			宇田川文海	明25・2・10
○夕涼み			宇田川文海	明25・2・10
○浦の松風			宇田川文海	明25・2・10
〔小説かひよせ創刊の〕はしがき			宇田川文海	明25・2・10
梅を観るの記			宇田川文海	明25・2・10
月瀬の真景に題す			宇田川文海	明25・2・10
新小説掲載の御披露			宇田川文海	明25・2・10
明日より掲載の新小説御披露			宇田川文海	明25・2・10
小説七種を掲ぐるの序詞			宇田川文海	明25・2・10
造船学士			宇田川文海	明25・2・10
吾妻土産秋の草刈			宇田川文海	明25・2・10
富士見業平			宇田川文海	明25・2・10
いろくらへ			宇田川文海	明25・2・10
健康の栞			宇田川文海	明25・2・10
勝能進翁七周忌の法筵につらなりて			宇田川文海	明25・2・10
病後の美人			宇田川文海	明25・2・10
健康の栞			宇田川文海	明25・2・10
○坐睡			宇田川文海	明25・2・10
○造船学士			宇田川文海	明25・2・10
暴食家			宇田川文海	明25・2・10
岩上龜			宇田川文海	明25・2・10
阪大 阪大	阪大 阪大	阪大 阪大	阪大 阪大	阪大 阪大
毎日新聞	文芸雑誌	朝日新聞	毎日新聞	朝日新聞
宇田川文海	半痴居士稿	宇田川文海	宇田川文海	宇田川文海
明26・1・3	明26・1・2	明25・12・18	明25・11・10	明25・10・17

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
三日の旅	〃	宇田川文海	〃
博覧会美術品短評	〃	宇田川文海	〃
敵島中止に就て	〃	宇田川文海	〃
祝勝軍歌	〃	宇田川文海	〃
病中苦吟一二	〃	〃	〃
滑稽 大当矢の魂	〃	〃	〃
演劇 勝軍祝一曲	〃	半痴居士戯作	〃
美人高砂祝松風	〃	半痴居士戯作	〃
寄海祝歌	〃	宇田川文海	明28・1・1
祭文	〃	〃	〃
辻信之介君を悼む	〃	〃	〃
新小説掲載披露	〃	〃	〃
新小説披露	〃	〃	〃
新小説掲載披露	〃	宇田川文海	〃
〃	〃	無署名	〃
敷島	〃	宇田川半痴戯作	明29・2・9
春日に藤を見て	〃	宇田川文海	〃
新小説蚤の痕掲載の披露	〃	宇田川文海	〃
朝明の風	〃	宇田川文海	〃
〔俳句〕	〃	半痴居士	〃
闇黒	〃	文	〃
酉年を祝ふ辞	〃	宇田川文海	明30・1・1
ゆかりの四季	〃	宇田川文海	〃

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
契沖阿闍梨	"	半字 痴居士	"
孟蘭盆(第五)	"	半字 痴居士	"
新年梅	"	半字 痴居士	"
花ゑみ	"	半字 痴居士	"
福耳	"	半字 痴居士	"
契沖阿闍梨	"	半字 痴居士	"
孟蘭盆(第六)	"	半字 痴居士	"
天理教の特徴	"	無半字 署居士	"
契沖阿闍梨	"	半字 痴居士	"
孟蘭盆(第七)	"	半字 痴居士	"
梅のみさを	"	半字 痴居士	"
契沖阿闍梨	"	半字 痴居士	"
孟蘭盆(八)	"	半字 痴居士	"
雛のをしへ	"	半字 痴居士	"
神武天皇祭	"	半字 痴居士	"
南海双美	"	半字 痴居士	"
契沖阿闍梨補遺	"	半字 痴居士	"
人を以て鳥にだも如ざる可ん乎	"	半字 痴居士	"
契沖阿闍梨補遺	"	半字 痴居士	"
馬のよろこび	"	半字 痴居士	"
随感隨筆	"	半字 痴居士	"
親切	"	半字 痴居士	"
天理教信徒の本務	"	無半字 署居士	"

神憑	天啓に就いて	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
御神楽歌を読む心得	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
神憑	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
囀呼唯此の一事	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
日本は如何にして諸外国に優り得べき乎	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
世界ろくぢ	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
教祖の御予言	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
○福神としての夷様	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
伊勢路の春	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
ほこりばらひ	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
仮神殿と大仏殿	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
宗教と生活	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
福神としての大黒様	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
天理 <small>天理</small> 卒業生諸君に戯く	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
ひながた	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
お話に就て	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
別科入学生諸君を迎ふ	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
御大札奉祝の真意義	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
初代管長公を憶ふ	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
寄国祝	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
〔短歌・唱歌〕	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8
三十年祭雑感	神憑	道	乃	友	宇	田	川	文	海	大	4	・	4	・	8

題名・書名	刊行物名・(出版者)	署名	年月日
奉祝天理教独立十年祭の十文字を冠におきて	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
世界助けの教	上方	"	" " " " "
〔短歌〕	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
海辺の松	上方	"	" " " " "
〔短歌〕	上方	"	" " " " "
" "	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
世界一列	上方	"	" " " " "
てびき	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
時局と天理教	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
国民の覚醒	上方	"	" " " " "
何故遅かった	上方	"	" " " " "
米騒動に就て	上方	"	" " " " "
華城八景	上方	"	" " " " "
円満なる前管長	上方	"	" " " " "
やまひたすけ	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "
通俗 千利休	上方	"	" " " " "

普選の実施と社会的宗教

豊太閣経済的の一面

ひながた

豊太閣経済的の一面

四十年祭後の天理教

大阪朝日新聞初期時代吉野の花見

道の友を手にして

愆

豊太閣経済的の一面

夕霧のおもひで

本誌に対する回想談

市川齋入

劇場改良法

平瀬露香

養老の御盃を頂きて

河竹父子の追慕

『御意は芳野の山桜』

道方乃趣友

上方乃趣友

道方乃趣友

上方乃趣友

昭4・1・15

昭3・1・5

昭2・3・11

〔附記〕 宇田川文海 明治初期関西文壇の第一人者・続き物作家 の著作年表として、先に三浦阿き子氏作製『近代文学研究叢書31』昭44・7 昭和女子大学光葉会

が公にせられたので、小表はその拾遺というかたちを採った。